

IUHW

vol. **53**
January
2004

The gazette of International University of Health and Welfare

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 ☎0287-24-3000
ホームページアドレス：http://www.iuhw.ac.jp

新春に語る

特集

日本語で学ぶ、英語を学ぶ
留学生たちの新しい年
第八回学長杯英語スピーチコンテスト



全学科長の 「2003年、私の心に残った出来事」

保健学部長・作業療法学科長 杉原素子
医療福祉学部長・医療福祉学科長 鈴木五郎
看護学科長 中西睦子
理学療法学科長 丸山仁司
言語聴覚学科長 伊藤元信
視機能療法学科長 新井田孝裕
放射線・情報科学科長 飯沼一浩
医療経営管理学科長 水巻中正

◆「人」第3回
「言葉を磨き思想を磨く」
国際医療福祉大学総長 大谷藤郎

◆連載エッセイ「見・聞・録」第3回
「あなたはWHO的に“健康”ですか？」
大学院教授・国際部部長 長谷川豊

◇トピックス「学生生活に関するアンケート調査報告」

Information
附属熱海病院／国際医療福祉病院・介護老人保健
施設マロニエ苑・特別養護老人ホーム柘の実荘／
医療福祉リハビリテーションセンター・おおたわら総合
在宅ケアセンター・国際医療福祉大学クリニック／山
王病院・山王メディカルプラザ／医療福祉チャンネル
774／国際医療福祉大学出版会

国際医療福祉大学 理事長 高木邦格
国際医療福祉大学 学長 谷 修一
国際医療福祉大学 大学院 院長 開原成允
大田原市長 千保二夫



Mr. Masayuki ENDO, winner of the President's Trophy

On December 10, Wednesday night, the 8th Annual English Speech Contest was held at F101 auditorium. It was truly an exciting night with 28 contestants—each representing his/her communicative class. Though the speeches were excerpts from the famous speeches made by Kennedy, King, and Fisher, the 28 sophomores showed us how much they could do to make those speeches their own. The audience, including our President Tani, was much impressed by their performance on stage. They put so much effort in practicing hundreds of times for this contest.

Ms. Yuki Furuta (ST) was a wonderful MC, and the guest judges were Prof. Mizumaki and Prof. Kamakura, who were happily surprised to see how well our students could do. As a result, all the five judges (Prof. Tanaka, Mr. Cota and Mr. Kelso included) had a very difficult time in making decisions of the winners. Mr. Endo (NS) is the first place winner, Ms. Harumi Matsumoto (NS) the second, and Ms. Kumi Morishima (HM) the third. Congratulations, everybody on the contest! We are very proud of you, and thank you for the wonderful performance. President Tani's speech in English was very impressive, too. His message to the students was: "Don't be afraid of making mistakes in language learning." It is very true! (Noriko Minamii)

Masayuki Endo, the first prize winner

I really enjoyed the speech contest. That night turned out to be one special night for me. I shall never forget it. Thank you for giving me this chance. I deeply appreciate this given challenge. Fortunately, I won the first place and the sweetest part of winning is to know that all my hard work and pain paid off. Through this contest, I learned it's better to have tried and failed than never to have tried at all. But without great help of the teachers and my family, I could not have succeeded. Thanks to the great audience that night, I enjoyed making a speech. I realized how happy and lucky I was to get help from many people. I am afraid that my words cannot fully express my gratitude.

Harumi Matsumoto, the second prize winner

It was an amazing experience for me. I really enjoyed the process of interpreting the famous King's speech and making it my own. It was rather exciting. I asked myself, "Why did he make this speech? How was he feeling then? How difficult was it for him to speak out? Did he have a bright image for the future with the bell of freedom ringing throughout the country? Was he scared or not?" Searching for answers, I gradually built up my own way of presentation. I enjoyed being on the contest, and I would like to say "Thank you very much" to everyone who encouraged me.

Kumi Morishima, the third prize winner

First of all, I would like to express my gratitude to Minamii-sensei and Dobbs-sensei. Their coaching and encouragement meant so much to me. I could not have even been on the contest without their help. Even if I say thank you for so many times, I can't express my feeling enough. Moreover, I should not forget to mention my twin sister's support. She was always with me when I practiced, and she was the most difficult critic to please. And yet she cheered me up when I felt helpless. Many people helped me and supported me. The trophy I have here is not just mine; it is a prize for them, too. This experience will surely remain as the very precious memory of my college life. Thank you for giving me a chance!

英語を学ぶ

President Tani's Speech (dictated by editorial staff)

Good evening, fellow students, colleagues, friends, and ladies and gentlemen. It is my great pleasure to be given an opportunity to be here at IUHW English Speech Contest. First of all, I would like to congratulate all the twenty-eight speakers for their excellent presentations. I want to give all of you the president's trophies; however, the "resources" are limited, and so, only three of you won the trophies. I appreciate the efforts made by the staff members of English Language Center. There must have been a lot of time and energy spent in teaching students how and what to do in public speaking. Students seem to have learned a great deal through this challenge and experience.

Now let me give you some advice concerning English language learning, based on my experiences in the past thirty or forty long years. Firstly, "Don't be afraid of making mistakes. Don't hesitate in speaking out in English." English is just one means of communication; it is a tool—no more or no less. It is up to you to use it. Therefore, secondly, whether it is in Japanese or English, if you have something to say, something of your own, then, you can "speak up." If you don't have any thought of your own, no matter how good you are in making presentations, you cannot have true communication with other people. You have to learn as much as you can now, and prepare yourselves for the future to work as health specialists. That is one of the reasons why you are here this school for four years.

I'd like to say thank you to the five judges. You've made the difficult decision—choosing the best among the brightest. I also thank you, Ms. Yuki Furuta, who served as our MC this evening. You certainly did a very good job. I thank all of you who gathered here in this auditorium this evening for your support and encouragement. Without you, this contest would not have been successful.

2003.12.10 第8回学長杯 英語スピーチコンテスト

- 1位: 遠藤雅幸 (NS, 2年) 中央
- 2位: 松本晴美 (NS, 2年) 左
- 3位: 森嶋久美 (HM, 2年) 右



現在本学には36名の留学生が学んでいる。その国籍の内訳は、中国19名、韓国8名、台湾3名、ケニア2名、モンゴル・フィリピン・ネパール・ベトナム各1名だが、留学の形は、私費で、あるいはJICAの支援を受けてとさまざまである。今回ご登場いただく、ケニアのダニエルさんは、KMTC(ケニア・メディカル・トレーニング・カレッジ)で理学療法学科の教師をしていたが、ケニア政府とJICAの間でKMTCの技術協力が提携され、その研修員に選ばれ来日。ネパールのサンカルディブ大学大学院の経営管理学科1年生として会計学を学んでいたアルチャナさんは、東京の日本語学校で日本語を勉強していた際、ネパール大使館を通じて本学を知り試験を受け合格。奨学金を利用して勉強している。また、日本の支援を受けていた中国のリハセンターで、劉さんはPTとして、陳さんはOTとして働いていたが、そのセンターから推薦され、高木理事長と初山元大学院長の面接を受け本学に学ぶことになった。遠い国から医療と福祉の勉強のためにやって来た彼らは、この大田原の地でどのような夢を抱いているのかを聞いた。(取材・文:編集部)

- 留学生たちの新しい年 -

皆さんのお国の福祉事情と夢を聞かせてください。

劉 「中国のリハビリ研究センターの理学療法学科で12年間働いていました。中国ではまだ正しい理学療法士のルールができていませんし、理学療法を教えている大学が1校ぐらいしかありません。人口からすれば少ないですね。中国の障害者の人数はだいたい6万人ぐらいで、すでに高齢化社会になっています。中国社会では福祉がまだ行き渡っていないので、日本の正しく新しい理学療法の理論と技術を勉強するためにやって来ました。」

陳 「私と劉さんのいた中国のリハセンでは、OTの場合、10年前

はまだ先生に対する教育を行っていませんでした。ですから日本のより良い技術を勉強したいと思ってこの大学に来たのです。この4年間作業療法士として一番勉強したことはADL(日常生活動作)に関してです。今はいろいろな技術、知識を勉強して中国に帰って後輩たちに伝えたいと思っています。」

ARCHANA 「ネパールでは医療経営管理学科を学べる大学が最近になって1、2校でできましたが、私がこの大学に入ったときにはありませんでした。病院でも患者のサービスまでにはまだ目が行き届いていませんし、経営面もまだまだです。そこで医療経営管理学科があるこの大学で勉強して、ネパールで必要とされる人材になりたいと考えたのです。医療経営を学

日本語で学ぶ

Sutudy in Japanese

んだ者は病院になくはならない存在だと思います。」

E ダニエルさんは、PTの先生ですがなぜ理学療法士に?

Daniel 「高校時代スポーツが好きでサッカーなどをしていました。そのとき、鎖骨を2度骨折したり、足の骨も骨折しました。そして病院で治療を受ける中でリハビリの存在を知ったのです。そのとき、自分の進路として理学療法の道を選びました。」

E 新年ですからお正月についておかがいします。

Daniel 「ケニアで一番大切なお祭りはクリスマスで、正月は特にありません。ただ、大晦日は花火を上げたりして午前0時になるまで教会にいて踊り、神に祈りを捧げ、そして新

年を迎えにいったん家に帰り、1月1日の朝になったらまた教会に行きます。」

劉 「中国は春節で旧暦の正月です。1月中旬で、お餅ではなく餃子を食べ爆竹を鳴らして祝いますが、大学に来てからはいつも試験勉強の時期と重なってしまい、それどころではありません。」

正月は友だちが皆実家に帰ってしまい、部屋で1人で勉強していると寂しくてホームシックになり、つい隣の部屋の劉さんに声をかけるという陳さん。日本のおせち料理には1つひとつに意味があっておもしろいと言うアルチャナさん。

みなさん2004年のお正月も、やはり、帰国後の夢を叶えるための「勉強」だったのでしょうか。



劉 惠林 (リュウ ケイリン)
国籍:中国 37歳
来日4年 PT4年



陳 紅 (チン トウコウ)
国籍:中国 36歳
来日4年 OT4年



Daniel Muli Kangutu (ダニエル ムリ カングトゥ)
国籍:ケニア 42歳
来日2年 大学院, 博1, PT

特集

IUHW feature articles

日本語で学ぶ、英語を学ぶ

- ・留学生たちの新しい年
- 取材協力: 石井博之・理学療法学科助手
- ・第8回学長杯英語スピーチコンテスト



ARCHANA PRADHAN (アルチャナ プラドハン)
国籍:ネパール 26歳
来日5年 HM3年

新春に語る

二〇〇四

国際医療福祉大学理事長 高木邦格



国際医療福祉大学の、昨年の大きな動きとしては、まず、一月に大学院のサテライトキャンパスと東京事務所を港区の乃木坂に移転したことが挙げられますね。都心の駅から数分という恵まれた場所と、また大変きれいな建物で講義が受けられるようになったわけですが。

東京における大学院の教育の拠点を充実させるということは、本学にとって重要であるという認識はかねてからありました。これまでの施設は非常に手狭でしたので、ゼミ室、テレビ会議システムを用いた同時双方向遠隔授業のできる教室、多数の方々が講義を受けられる乃木坂ホール等の整備を行い、充実を図りました。おかげさまで百名以上の大学院生、特に社会人を中心とした皆さまにここで勉強をしていただいております。

東京だけでなく、昨年末には福岡の

国際医療福祉大学理事長 高木邦格
国際医療福祉大学学長 谷 修一
国際医療福祉大学大学院院長 開原成允
大田原市長 千保一夫

サテライトキャンパスも新しい建物に移転されました。

福岡の天神駅から非常に近い場所に大学院の建物を一棟準備しました。福岡における大学院の教育も大変重要で、現在多数の学生の皆さんが授業を受けていらっしゃいますが、事実上独立した形で大学院の運営ができるようスタッフや設備の充実を図っているところです。

大学院の充実ということでは、サテライトキャンパスの移転の他に、今年四月に、治験コーディネーター(CRC)の養成を目指した「臨床試験研究分野」を大学院修士課程に開設する予定です。これは、わが国初ということですが。

治験の分野は日本でも重要視されています。薬の副作用や効能といったものを学問的に見ていくことは非常に重要です。これからは学問的な背景を基に、明確な形で治験コーディネーターの養成が必要ではないかと考え、今年四月から大学院の修士課程に臨床試験研究分野を開設するべく準備しているところです。

この治験コーディネーターの養成コースの開設に先立ってプレ講座という形で公開講座を行いました。当初三〇名程度の参加を想定していたのですが、実際は百名以上の方々からの応募があり、治験分野に対する関心の高さに驚いているところです。

さらに、来年四月には大田原キャンパスに薬学部を新設、従来にはなかった多くの新設科目を組み入れて、これまでにない薬学部教育を目指す予定です。

薬学部新設に当たってカリキュラム等を勉強したのですが、既存の学部で教育している看護やリハビリテーションの各分野に比べますと、病院実習などがほとんどありません。しかし、病院の現場では医療事故や誤薬といった問題が多数あるわけですから、そうした状況の中で、私どもの附属の医療機関や臨床医学研究センターの施設を動員して、実習教育に重きを置くということが一つあります。

それ以外にも、薬剤師になった後、治験コーディネーターになったり製薬企業に就職したり、また自ら薬局、調剤薬局の経営に当たる方もあるかと思えます。そうした方のために、例えば「製薬企業論」や「臨床試験管理学」といった科目を設けるなどの工夫を考えています。

現在、四年教育から六年教育が変わっていく変革期でもあるので、薬学部教育においても日本におけるリーダー的立場を確保しようではないかという意気込みで薬学部設置の準備を進めています。

北関東では初めての薬学部ということ



国際医療福祉大学学長 谷 修一

その結果、多くの学生が本学の教育全般について高い評価と充実した学生生活を送っていることが明らかになった反面、いくつかの課題も明らかになりました。これらの問題については、順次その改善に取り組むこととしております。

現在大学では、来年四月の開設を目標にして新たに薬学部の設置の準備に取り組んでおります。この薬学部の設置によって、今後研究活動がさらに活発になり、本学が中心となった栃木県北部地域での医療福祉分野における研究活動の拠点としての役割も期待されております。

また平成十七年には本学開学十年を迎えます。卒業生もすでに三千人を超え、全国の医療福祉の現場で活躍しております。現在大学では、記念行事の一環として、図書館の増設、体育館の拡張と柔道場などの武道館の新設、学生食堂の増設などの計画をしております。これら一連の記念行事の実施にあたりましては、多くの関係者の皆様に幅広くご支援をお願いすることとしておりますので、本学発展のためによろしくご理解ご協力をお願い申し上げます。

わが大学も平成七年に開学以来、多くの方々のご支援によって、順調に発展してまいりました。私はこの際、人間中心の、社会に開かれた大学として、「共に生きる社会」を目指すという建学の精神を踏まえつつ、わが大学が、学生のための大学であることを改めて肝に銘じ、教職員の皆様とともに、教育や教育の支援にあたってまいりたいと考えておりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

あります。



大田原市長 千保一夫

「激動の時代」が毎年枕詞として使われますが、今年も間違いなくそう呼ばれるにふさわしい年となるでしょう。

そして、大田原市は、貴大学の存在によって今年もまた希望に輝ける一年の幕開けを迎えることができ、心から大学関係者に感謝申し上げます。その感謝の念の発露として貴大学に学ぶ学生の皆さんに対し、市民を挙げて温かく接していかねばと、心新たにしているところです。

本市は、今から約八二〇年前、屋島の合戦で扇の的を射落とした那須与一宗隆の時代から那須一族が支配し栄えてきた那須地方の中心です。豊富な水によって豊かな穀倉地帯として早くから開け、城下町、宿場町として栄えて参りましたが、明治以降その時代時代の高速交通網に直接的には恵まれません。最近では必ずしも北那須地域において往年のように重要な役割を果たし得ているかは疑問視されることもありまして、ところが縁あって、貴大学が本市に開学されて以来、賑わいが戻り、本市の活力が毎年ごとに漲ってくる様は、目を見張るものがあります。

栃木県内の他市町村からも羨望の眼差しで見られるほどの実力をつけ、今や二十一世紀の新しい価値観に立てば正に県内を

ですが、福島、茨城、栃木、群馬にはこれまでなかったのです。

不思議なことに、日本の薬学部教育の大半は東京で行われています。東京では薬剤師の人数はある程度充足してきていますが、これは医師についても同じで、こうした人材の地域的偏在が非常に問題になっていきます。そこで私も北関東における薬剤師の充実を視野に入れつつ、日本の薬学部教育に変革を起すくらいの気持ちでいます。

また、昨年は学内に痴呆老人のための施設であるグループホームを開設したほか、新築工事の進む附属熱海病院も、来年七月には新しい建物で診療を開始する予定と聞きました。今年はIUHWグループ全体としても大きな飛躍の年となりそうです。

私も医療と福祉の融合、両立を目指した大学ですので、福祉分野でグループホーム、在宅ケアセンターを学内に設置することは、学生のボランティア活動、実習等にも役に立つのではないかと考えたのです。反応としてはお年寄りに非常に喜ばれております。附属熱海病院は海の近くにあり眺望がすばらしく、敷地の中には温泉の源泉が二つもあります。東京から新幹線を使って三〇分前後で行くことができ、駅からも至便なところにあります。栃木における国際医療福祉病院、東京における山王病院とは違った意味での地域の基幹病院にしていきたいと思っています。また、新病院が完成すれば、学生の实習に非常に役立つ立派な施設になるでしょう。

今年も国際医療福祉大学の躍進が期待されます。本日は有り難うございました。

(本稿は「医療福祉チャンネル774」国際医療福祉大学「アワー」より転載したものです。)

ードする福祉、介護の充実したまちづくりが着々と行われ、大田原市に住んで良かった、と誇れるようなまちの姿が見えてきております。

街に若者の姿が溢れるように見受けられるだけでも市民の心を明るくしてくれますし、さらにはボランティア精神旺盛、優しい心の持ち主ばかり、地域の子どもたちやお年寄りの中にも積極的に溶け込んで交流を図られていて、筆舌に尽くせぬほどの感謝の念で一杯です。

願わくは、無限の可能性を秘め、しかも自らの人生の成功の鍵をしっかりとその手中に収めている学生さんたちが、青春時代の真ん中で道に迷っているばかり、などということもなく、目標に向かって邁進し、目標達成の向こうにある幸福を確実につかんでほしいと思っています。

人はだれでも期待されると、それに応えたいと思つたものです。学生さんたちに対してご父兄の皆さんが、はっきりと期待の言葉をかければ、学生さんたちもその期待に応えるものと思えます。

関東の最北端の本市に学ばれる学生さんたちを私たちは親身になって見守り、本市から巣立たせて上げたいと願っております。ご父兄の皆様からのご要望等もご遠慮なくお寄せください。





すべての医療職の生涯学習のセンターを目指して

昨年四月初山先生の後任として大学院長を引き継いでから早いもので一年が過ぎようとしています。初山先生が築いてくださった大学院は、現在では、福岡、柳川、東京、熱海にサテライトキャンパスを持ち、過去から現在までの入学者総数で見ればすでに四〇〇名を超え、現在の在校生数で見れば二五〇人以上という大きな組織になっています。今年は、初めての大学院博士課程修了生が出て、大学院は完成することになります。

しかし、急速に拡大してきた大学院にはいろいろな問題も出てきました。また一方で新しい分野への需要もあります。これからは、問題点を解決しながら、新しい分野への展開も考えていくというバランス感覚をもった運営が必要です。

今後の課題として一番重要なことは、学習環境の整備です。教員の充実、カリキュラムの充実が最重要課題であることは言うまでもありませんが、設備面でも、遠隔授業システムや各キャンパスの学習環境を整備しなければなりません。幸い、皆様の努力でその改善は急速に進んでおり、四月か

らは、福岡には新しい大学院用の校舎ができ、遠隔授業システムも三系統となり、図書も洋雑誌が電子ジャーナル化するなど、四月からは、学生に喜んでもらえることでしょう。しかし、教員の充実、カリキュラムの充実は今一歩というところで、これは今年の課題として引き続き努力が必要で、一方で、新しい分野への展開としては、今年から臨床試験研究分野(CRC)が開講されることとなります。すでに、入学者も一部決定しており、本学大学院の一つの特色となることでしょう。また、昨年CRCの公開講座を開いてみて、大学院に入学者の余裕はないが生涯学習を求めている多くの人がいることが分かりました。今年、こうした人たちに對しても本学大学院が生涯学習の機会を提供したいと思っています。幸い、東京乃木坂には「乃木坂ホール」という八〇〇人程度収容できる設備の整ったホールができました。ここを最大限に活用して、仮に「乃木坂スクール」と名付ける一連の生涯学習センターを作りたいと思っています。今のところ、薬剤師の医療面での再教育を目指した「医療薬学コース」、医療機器の安全な使い方を教育する「医療機器コース」、最近の医療制度や経営の実務を教育する「医療経営コース」などが計画されています。

国際医療福祉大学でなければできないようなすべての医療職の生涯学習センターを目指して、今年も皆で頑張りましょう。

心に残る球技大会となったことだろう。試合結果
バスケットボール
優勝：チームタカ！/準優勝：B・B・C/第三位：テボ氏/特別賞：チーム音藤
フットサル
優勝：F・Cすてごま二/目/準優勝：F・Cすてごま二/目/第三位：スッキリながらもち/特別賞：なし
バレーボール
優勝：鷹さん/準優勝：バレーリーナ/第三位：大塚チーム/特別賞：バレー対象特性看護方法論
(学生会行事企画局局长 永長理恵)

Date: November 11/8
学生会主催球技大会に
総勢二一〇名が参加

去る十一月八日に、学生会主催の球技大会が、本学グラウンドと体育館で行われ、選手・役員・審判総勢二一〇名が参加、バスケットボール・フットサル・バレーボールの三種目に汗を流した。

選手たちは開始一時間以上も前から集合、準備運動や練習を行うなど、競技開始前から、会場は熱気に満ちていた。バスケットボールでは、延長戦までもつれる試合が出るなど、熱戦が繰り広げられた。

フットサルは、各自持参した黄や臙脂のユニフォームが、色鮮やかに青空に映え、白熱した試合が繰り広げられた。また、転倒した選手を、両チームの選手全員が気遣う「好プレイ」も見られた。バレーボールは、選手構成の性別を問わなかったため、男子チーム・女子チーム・男女混合チームの戦いとなり、ジャンプサーブやスパイク、ブロックの本格的な好プレイが続出、試合を終えた他の二種目の選手たちも体育館に集合し、一層の盛り上がりを見せた。

今回の大会は、参加者の大きなけがもなく、参加者にとっても、



好プレー? 続出のフットサル

Date: November 11/12
第六期卒業研究発表会
(理学療法学科四年)開催

十一月十二日(水)の九時~十七時、本学F一〇教室にて第六期生である理学療法学科四年生の卒業研究発表会が開催された。今回の発表会では、演題数が多いため初の試みとして口述発表とポスター発表が行われた。これらの発表形式にはそれぞれメリットがあり、決められた時間内にインパクトのある発表ができるのが口述発表、発表者と聞き手の間で密なコミュニケーションが持てるのがポスター発表の特徴となる。今回は教員のアドバイスを元に、学生の希望を取り入れた発表方法の選択となった。

この日のために用意されたスライドやポスターは、回を重ねることにレベルが高くなっており、工夫をこらした完成度

連載エッセイ ken・bun・roku
見・聞・録 第三回
大学院教授・国際部部長 長谷川 豊

“あなたはWHO的に健康”ですか？

「健康とは、単に病気でないとか虚弱でないということではなく、身体的、精神的および社会的に完全に良好な状態にある、ということである」というWHOの「健康の定義」は、一九四六年に制定されたWHO憲章・序文に記載され、ほとんどの保健・医療分野の教科書に載っている有名な「定義」である。しかし、この「定義」、何か変ではないですか？ 私は、生まれて六十有余年、「WHO的健康状態」であった日はほとんど無かったように思う。乳児期は、お腹が空いた、おむつが濡れた、と泣き喚き、虫歯に悩まされた幼児期から小学校時代、中学に入ると理科の時間に顕微鏡に映っているものがよく見えなくなり、強度遠視と判明、以来、眼鏡を掛けっぱなし、社会に出ると毎日ストレスで熟睡できず、やがて高血圧にと、「WHO的健康」とは程遠い状態。

世界六十億の人口の中で、WHO的「健康」に恵まれている人は一体何人いるだろうか。本学は、その教育理念の中で「病氣や障害を持つ人も持たない人も共に生きる社会」の実現に貢献することを目指しており、WHO的健康目標とはまったく異なる。ところが、WHOも、現実の施策には前記定義と違った「健康目標」を使っているのである。一九七八年、旧ソ連・アルマアタでWHOとUNICEFが共催した有名な「プライマリヘルスケア国際会議」で打ち出された、Health for All by Year 2000. のスローガン。この、西暦二〇〇〇年までに世界のすべての人々に健康を、と高々と謳った「健康」は、何と最初に述べたWHO定義の「健康」ではなく、「二〇〇〇年までに、各国の乳児死亡率を出生一、〇〇〇対五〇〇以下にする。(ちなみに、日本は一九七八年時点で一、〇〇〇対九、現在は約三)」等々、かなり「現実的な健康目標」であった。つまり、WHOも本音と建前を使い分けているわけで、学生に「WHOの健康の定義」を教えるときには、両方を説明し、本学が目指していることとのギャップを埋めておく必要がある、と私は思っている。
(ちなみに、二〇〇三年現在、多くの発展途上国で、この「現実的健康目標」さえ達成できていない。)



WHOプライマリヘルスケア報告書



ポスター発表では真剣な討論が行われた

の低いものが目立った。また、着慣れぬスーツに身を固めた四年生たちも臆することなく自らの研究を披露しており、最上級生としての自覚もできているようだ。演題の分野もラットの解剖による生理学から臨床に即したものやスポーツ分野のものまで多岐にわたっており、内容も将来彼らが進むであろう道を垣間見ることができた。質疑応答の場面でも、教員の手厳しい質問はもちろんだが、学生間でも活発に行われ、有意義な経験を積み場となったようだ。
(理学療法学科 島本隆司)

Date: November 11/24
医療経営管理学科主催
「医療経営戦略セミナー」を開催

近隣地域への研究成果の還元を目的とした「医療経営戦略セミナー」が十一月二十四日(午後一時から四時三〇分まで)本学E棟四〇一教室で開催された。日ごろの医療経営管理学科の教員の研究から、医療経営に役立つ内容を地元の

医療機関に提供しようと企画され、栃木県と福島県の病院に案内を送ったほか、本学卒業生にも開催を知らせた。テーマを「急性期(DPC)および慢性期(RUGS)の包括支払制度の導入が今後の医療経営に与える影響」とし、プログラムは、「DPCの今後の展望と地域の医療経営へ与える影響」と題する講演と、DPC内のばらつきや、医療費シミュレーションについてエクセルを使った簡単なデータ解析の演習が行われ、いずれも本学医療経営管理学科の高橋泰教授が担当した。

当日は秋の三連休の三日目にもかかわらず、栃木・福島両県のみならず、関東一円の医療機関から理事長、副理事長、事務局長、医療事務担当者、システム担当者など三〇名が参加された。これに加えて、学科の教員や学部学生などの聴講希望者も多数集まり、会場からあふれ出そうなお熱意に包まれたセミナーとなった。

セミナーの趣旨から、大学事務局の多大な協力を得たほか、学生ボランティアの積極的な支援も得て、順調な運営が実現したが、参加者へのアンケートを見ても、内容がタイムリーで分かりやすかったうえ、簡便なデータ解析の演習まで受けられたことから「よかった」「役に立った」という感想が大変多く、今後の継続的な開催を期待する声も何件か寄せられた。
講演の合間に、学部の学生が企画・制作した、学科紹介のプレゼンテーション(関係者へのインタビュー・ビデオ付き)も行われ、学生の实力も、ちゃっかり示すこともできた。
(医療経営管理学科 山田康夫)

社会福祉現場実習のあり方を協議 二〇〇三年度開業情報センター研究大会開催

医療福祉学科では、全学生が社会福祉の国家資格である社会福祉士資格の取得を目指している。その受験要件科目の一つに「社会福祉現場実習」があり、本学では、三年生の夏休みに全員が希望する領域の施設や機関で二十三日間の実習を行っている。この実習生を送り出す学校関係者と、実習指導に当たる施設・機関の関係者などが一同に会して研究協議を進める場として、去る十一月六日、「社会福祉現場実習の位置づけと課題」をメインテーマに標記研究大会（大会会長・鈴木五郎 医療福祉学部長）が本学で開催された。

当日は、関東甲信越の各地から学校関係者、施設・機関関係者あわせて約三〇〇名の参加があり、各分野、地域で抱えている課題を巡って熱心な研究協議が行われた。午前中の全体会シンポジウムでは、大学、短大、福祉施設関係者が、それぞれ実習教育の到達点と課題について発言し、多様な教育環境のもとで、実習の質を一定レベルに保つ必要性とそのためにそれぞれが取り組む課題について討議を行った。午後は、児童、障害、高齢等各実習領域ごとに七分科会に分かれ、各領域が直面する課題に関する分科会討議を行い、最後に、再度全体会で各分科会での討議内容を報告しあい、問題認識を共有して無事大会の全日程を終えることができた。

初めてこのような大会の開催事務局と



シンポジウムでは活発な討議が行われた

なった医療福祉学科では、教職員一丸となって運営に当たったが、参加者から充実した内容であったとの感想をいただきました。

つとじているところである。

なお、大会運営に当たって、会場案内、受付、記録など、述べ一〇〇名の学部生・大学院生に協力いただいたが、当日参加した施設関係者から学生の対応ぶりを非常に高く評価いただき、「ぜひ国際医療福祉大学から新人職員を採用したい」との申し出を受けたという、ちよつと嬉しい「副産物」があったことを最後に付け加えておく。

（医療福祉学科 小林雅彦）

二〇〇三年度大学院博士後期課程 一、二年発表会

一、日時

二〇〇三年度の標記発表会は十二月二十一日（日）十三時より開催された。

二、場所

当初会場は大田原本校に限り行う予定であったが、最終的には東京キャンパスと福岡キャンパスでもサテライト方式で参加が可能となった。

三、会場と報告の概略

会場は通常使われている教室A、Bと、演習室の一教室をC会場として行われた。報告の概要は以下の通りである。
A会場：放射線・情報科学分野関係二題、理学療法学分野十一題
B会場：言語聴覚分野二題、作業療法学分野四題、リハビリテーション学分野二題、看護学分野四題
C会場：作業療法学分野一題、看護学分野九題、放射線・情報科学分野関係二題

四、報告会の様子

報告者の都合により、聴講したA会場のみにして報告させていただく。A会場では一年生（D1）七名、二年生（D2）六名の発表があった。D2については、三年の期間に対して二年が終わろうとするときであり、実質的

に一年を残すのみである。かなりまとまりつつある内容もある一方で、論文にまとめられるのが不安になるような内容の報告もあった。今後、博士課程全体の研究・論文の質を高めるための議論も必要と考える。

D1はむしろ研究の端緒にいたった時期であると思う。このような報告の機会に指導教員以外の先生の意見を聞き、普段の指導とは異なる側面からテーマについて考えることは大変意味のあることと思う。実際D1、D2にかかわらず、多くの教員から、また同僚の大学院生より種々の質問が出ていた。雰囲気としては大変活発であり、有意義な報告会であったと考える。

（大学院 田中繁）

同窓会通信

同窓会マロ工会長 野田忠明

こんにちは、同窓会会長の野田です。さて、去る昨年の十一月二十三日（日）に、同窓会企画「OB・OGセミナー&座談会」と題し、同窓生ならびに在校生のための交流会を行いました。初めに在校生でしたが、さまざまな反響をいただき、参加していただいた皆様には、有意義な時間を過ごしていただけたものと確信しております。できれば社会人になりたくないのですが、「この春から病院に勤めることとなった男子在学生の一言から、この会をぜひ続けていきたいという気持ちになりました。」

「知らない世界に飛び込むのだからみんな心配です。」そう言いかけて、ふと当時の自分を思い出しました。とりあえずの勉強、とりあえずの志、とりあえずの格好で踏み出す一歩がなんと心もとなかったことが。そつだ、いいことを教えましょう。実はみんなあまり知らないのですよ。「事実です。知らないことは恥だと思われがちですが、知らないことは実はとても重要なことです。曖昧に覚えたり、思い込みをするより、ずっと謙虚で冷静です。もしかししたら彼には得心がいてないかもしれませんが、頑張ってください。」

会場ではたくさんの白熱した会話がありました。同窓会も兼ねていますから、懐かしい会話もあったと思います。きつとトップシークレットの「企業秘密」もあつたのでしょうか。

運動施設等について

運動施設等の整備充実については、平成十七年度に予定している薬学部設置、開学十周年の事業として体育館の増設、武道館の新築、食堂の新築、図書館の増築を計画しています。

その他

学生ボランティアグループ「かざはな」の活動報告を受け、ストレッチャー収容可能な大型エレベーターの新設、バス停から講義棟間の通路のスロープの改修、階段・出入口の改修、手すりの増設等バリフリー化を目指した構内環境整備を年度内に完成予定で工事を行っております。

三、今後の対応

このほかにも数多くのご意見、ご要望等がありますが、引き続き検討を行い、可能なものから解決していきたいと考えております。

経済状況について

約八割の学生が両親から学費を得ており、約六人に一人は奨学金によって学費の全部もしくは一部を賄っています。また、約七割の学生が生活費は足りると感じており、支出は高い順に「食費」「娯楽・交際費」「住居費」となっています。アルバイトは約五割の学生がしており、そのうち約四割の学生はアルバイト収入が生活費に欠かせないとしています。

学生生活全般 大学施設 サービスを含む）に関する満足度について

学習の充実感など教育のソフト面では適度な満足を得られているが、ハード面では部室からグラウンドが遠い、照明が暗い、サークル室の不足、運動施設の不足等に対する希望がありました。そのほか、教務課、学生課、クリニックなど窓口対応の仕方、書籍売店、カフェテリア・コンビニに関して営業時間の変更などの改善を望む意見が多く出されました。

総括

余暇生活、経済状況とも現時点で大学として早急な取り組みの必要性はないものと考えられますが、学生生活全般では多くの意見が出された大学の施設・サービス等の問題点の改善に向けて次のような取り組みを行うこととしました。

二、具体的な改善の取り組み状況

学生駐車場について

他大学の学生との交流は約半数の学生が行っています。約六割の学生が課外活動に参加しており、部・サークル活動が主体です。大学行事への参加動機は、積極的かつ消極的なものが半々でした。

より充実した学生生活を

「学生生活に関するアンケート」を基に、改善の取り組みが始まる。大学の学生がキャンパスや地域でどのような生活を送っているか、また授業や大学の設備・サービスをどのように評価しているか等について、その実態を明らかにし、よりよい大学づくりを生かしていくため、平成十四年度に学生のアンケート調査を実施しました。その詳細については、「二〇〇二年度国際医療福祉大学自己点検・評価報告書 学生生活の実態把握・評価」で報告されている通りです（本学図書館備付）。今回は学校生活・学生の厚生に関する項目について、アンケート結果とそれに対する改善の取組状況について報告いたします。

一、アンケート結果

授業以外で学生がどのような生活を送っているか（余暇生活）、経済的にはどのような生活を送っているか（経済状況）、大学生活全般や大学の設備・サービスに満足しているか（学生生活全般）の三項目について調査しました。その結果は次の通りです。

余暇生活について

他大学の学生との交流は約半数の学生が行っています。約六割の学生が課外活動に参加しており、部・サークル活動が主体です。大学行事への参加動機は、積極的かつ消極的なものが半々でした。

平成十五年十月より登録料の大幅減額を実施しました。

年間登録料については、平成十五年十月一日より自家用車五百円（従来一万八千円）、バイク・自動二輪二百円（同五百円）に変更し、今年度の年間登録料に対し、登録料の半期分を返金しました。平成十六年度からは年間登録料のみとなります。

事務所の窓口について

教務課および学生課の窓口業務については、平成十六年十月より十三時から十四時の間も窓口を開けることにより、九時から十七時までの間窓口業務を行います。また、窓口業務の担当職員ははじめ事務職員全員について、接遇研修を実施するなどして向上に努めております。なお、学生の皆さんも各種ルールの遵守をお願いいたします。

書籍売店について

書籍売店も平成十六年一月より十三時から十四時の間も営業をいたします。これにより十時から十六時三十分まで営業を行います。なお、図書券・図書カードの利用は可能となっています。

カフェテリア・コンビニ・エンスストアについて

大学生活には欠くことのできないサービスの一つであるカフェテリア・コンビニエンスストアについては、委託業者に対し学生の皆さんの要望を伝え、改善や見直しを行うよう強く申し入れを行いました。大学としても重要な改善課題として今後とも取り組んでいきます。



バス停からの通路のスロープを改修



全学科長の
二〇〇三年、
私の心に残る
出来事

■ 原素子 五郎 信裕
■ 杉原素子 五郎 信裕
■ 中西睦子 司 浩
■ 丸山仁 信裕
■ 伊藤元信 孝裕
■ 新井沼一 浩
■ 飯沼一 浩
■ 水谷中正

斯木ジャムスのコスモス

保健学部 作業療法学科長 杉原素子

平成十五年九月末、JICA短期派遣専門家として中国リハビリテーション研究センターに出向いた際、休日を利用して中国障害者連合会の支えを得て黒龍江省の斯木（ジャムス）を旅することができた。本学に留学していた理学療法士の劉建華君が付き添ってくれた。

なぜ、斯木なのか。私の祖父は昭和二十二年頃、この斯木の地で捕らわれ中共軍に銃殺されたと厚生労働省の記録にある。祖父は当時満州拓殖公社総裁として三十数万人の日本の開拓民の責任ある立場にあり、戦後のソ連軍の侵攻のため責任をとるかたちで捕らわれ斯木の収容所に収監されたところである。

劉君と黒龍江省のハルビンから斯木に向かつて車で三時間ばかり揺られながら、窓を外を眺めていると日本の開拓民が耕した

のエネルギーと感謝、両親への感謝、将来の希望および抱負などのスピーチの一つひとつが心に残る。スピーチを聞きながら起こる別れの現実ゆえの心の空洞化現象。しかし、卒業生の活躍も期待している。卒業生からの心に残る一言、「大学生活は大変楽しかった。」「理学療法士になってよかった。」「国際医療福祉大学を卒業してよかった。」「先生と出会えてよかった。」「などを聞きながら、卒業生の活躍を聞き、目にするたびに、何もできなかったかもしれないとはいえ、卒業生が確実に成長している姿を拝見すると大変うれしく思う。」

無名といふこと

言語聴覚学科長 伊藤元信

沢木耕太郎というノンフィクション作家がいる。独自の手法と文体が彼の作品の魅力だが、それ以上に私は彼の抑制の効いた表現がどこから生まれてくるのかが、長い間気になっていた。その疑問が昨年よつやく解けた。そういう意味で二〇〇三年は私にとつてささやかだが確実に一つの収穫があった年になった。

沢木は、昨年の秋に父の死を描いた『無名』という作品を発表した。彼の父は明治生まれで、裕福な家庭に育ち一族の会社の経営に加わっていたが、会社が倒産した後には溶接工場を起し、ガス溶接の専門家として手堅い仕事をしてきた。放蕩もせず悪事も犯さず、一合の酒と一冊の本があればよいといふ。彼の息子に言わせれば真の、無頼、な生き方を貫いてきた「無名の人」であった。息子は、旧制高校的教養の持ち主

あるう美しく整地された水田や畑。そして道にコスモスの花が延々と咲いている光景が目につけて言葉が失った。その光景は劉君に言わせれば、「日本とそっくりだ」であった。

私の祖父はコスモスが大好きだったし、赴任した先でコスモスを植え続けたと聞いている。劉君はコスモスと美しい畑の写真を撮り続け、帰国後CD-ROMにして私に送ってくれた。私は、念願の祖父に会えた気がしたし、コスモスに囲まれたこの地の開拓民の姿を想像することができた。そして、一層コスモスが愛おしく思えるようになった。

ハンセン病療養者の調査に取組んで

医療福祉学部 医療福祉学科長 鈴木五郎

二〇〇三年、私の心に残るできごとは、日本ソーシャルワーカー協会のメンバーとして参加したハンセン病元患者さんたちの実態調査です。これは、専門職団体のメンバーがボランティアとして調査の委託を受けたもので、全国十三カ所の療養所で生活をしているハンセン病の元患者さんたちから、隔離収容生活の経過や実態を聞かせてもらいました。私は、東北ブロックの責任者として、青森県と宮城県にある療養所の調査班を受け持ちました。

春から秋にかけて何度も現地を訪れました。その中で感じたことは、「無知」の恐ろしさで、専門家・行政の責任の重さです。WHOから隔離収容しないようにと勧告された後も三十数年にわたり大勢の人たちを隔離収容してきたことの根源にあるのは私

である父の知識量に圧倒され畏怖に近い念を抱き続けてきた。そして、文章を書くようになってからも、はしゃいだ物言いは決してこなかった。それは、「常に父の眼を意識していたからだ。父の眼、というより父たちの眼、とでもいっべきものを意識しつつ生きてきた。彼らの眼が、私に「知ったかぶり」の偉そうな口をきくのをためらわせた。」（沢木耕太郎著『無名』幻冬舎、二〇〇三年、一八七ページ）からである。私自身もまた、文章を書き、人の前で話をするときに、無名の人々を畏れる。

重度の心身障害を持つ子どもたちの見る世界

視機能療法学科長 新井田孝裕

昨年は二つの出会いがとても印象に残っています。一つは杉原先生から依頼され、三葉講師とリハビリテーションセンターの患者さんの視機能の評価に出向いたこと。その後三葉講師が精力的に入所者の視機能評価に取り組んでおります。もう一つは修士課程の院生の相談に乗ってほしいと鎌倉先生から依頼され、「全色」に特別な反応を示す視覚障害を伴う発達障害児の研究に少し助言できたことです。視覚とは眼に入った膨大な情報が脳に伝わり、脳のさまざまな領域で分析され、記憶との照合や注意が常に働いて認知されます。私たちはこの視覚情報に基づいて種々の運動を遂行しています。重度の心身障害を持つ子どもたちの多くは、運動機能やコミュニケーションの障害に加えて、眼と手の協調運動が未発達なため外界とのかわりが大きく制限されているいたり、眼自体にも強い遠視や乱視な

たちの無知であり、責任ある立場にいた者による無理解と差別です。

療養所の中にある巨大な納骨堂、寺院通りと称される道路沿いの寺や教会、不自由者棟といわれる特別養護老人ホームのような施設、いずれも長い間閉じ込められてきた人々の今日も続く生活の姿です。もう平均年齢七十六歳になるといって療養の方々と話しをすると、「死ぬまでに一度故郷に帰りたい」、「父母の墓参りをしたい」、「社会内生活を経験したい」と願っています。

教訓は、あの日の下キリ、あの下ヤリ

看護学科長 中西睦子

車については自信がある。いつの日にも必ずやひかれるであろうといふ自信である。私が、こつ思うようになったのには理由がある。まさに、昨年私は、車に「ひかれそう」になったのである。場所はこの大田原である。

雨が降っていた。私は傘をさしてアパートの近くの交差点で信号が青に変わるのを待っていた。私は信号が青に変わったのを確認すると横断歩道を渡り始めたのだが、一台のワゴン車は、私が渡り始めたのを見て、「当然のことだが」止まって待っていてくれた。と、右折してきた小さな赤い車が、「この車何をモタモタしている」と言わんばかりに、ワゴン車の陰から猛烈なスピードで、私の真横に飛び出してきて、すんでのところで急停車した。肝を潰すとはこのことで、動転する私を残してその車は、一言の謝罪も無しに行ってしまった。あどときナンバーを確認していさえすれば、と今だ

どの屈折異常や斜視を持ち、中には周期的に眼が揺れる眼振や情報を脳に伝える視神経が萎縮しているお子さんもいます。残念ながら、これまで眼科医・視能訓練士ともこの分野にはほとんどかわってこなかったのが現状です。なぜなら短時間の外来検査や診察では十分に評価できないからです。思つように意思の疎通ができなかったり、心を閉ざした子どもたちの訴えを理解し、残っている視機能をフルに活用するには、根気と愛情を持って、時間をかけて何回も接することが大切であり、さらに、ちょっとした彼らの表情の変化やしぐさから視反応を読み取る洞察力と工夫も要求されます。他の職種の方々との連携や、視能訓練士のこれからの職域を考えていく上でも、大変意義深い出会いでした。

国境を越えて

放射線・情報科学科長 飯沼一浩

二〇〇三年には大学生活においても個人的にもさまざまなことがありました。阪神フアンの一として阪神タイガースの優勝は一つの嬉しい出来事でしたが、最近の世界情勢を見ると、本当に喜び、期待に胸を膨らませる気持ちになれないというのが正直なところです。

力を背景にした大国主義とそれに対抗するテロ。解決の糸口が見えない世界情勢に心が痛みますが、望みを捨てず、本年も張り切ってゆきたいと思っています。

本学の卒業生が、医療福祉の現場で日常業務に真剣に取り組む活躍されているという情報が最も嬉しく、また、国内外で医療

に悔しい思いをしている。

こつしたことは一度ではない。その後も帰宅途中のスーパーマーケットの駐車場で同じような思いをした。大田原のドライブバーは、渋滞の道路で大したスピードも出せずにいる東京のドライブバーに比べて行儀が悪いと常々思っていたが、このときほどそれを確信した日はない。私は、以来大田原では青信号を信用しないことにした。我が身の安全は自分で守ると決めたのである。人一倍おっかない思いをしたのだから、このくらいの文句は言わせてもらっても罪にはならないと思っているのだが。

P.T.学科卒業証書授与式に思う

理学療法学科長 丸山仁司

最近物忘れ速度が加速され、多くの出来事を忘れてしまふ。少し前の出来事も遠い昔に感じられる中、記録をたどって一年を振り返ると、それでもさまざまな出来事が思い出される。三月にSARSとイラク戦争のため、中国への研修旅行が中止になったこと、その後の卒業式、四月の入学式とフレッシュマンキャンプ、五月以後はまさに光陰矢のごとしで、学会、運動会、中国派遣、大学祭、バス旅行、暮れの忘年会と忙しく時が過ぎていった。

その中で最も心に残る出来事は、P.T.学科の卒業証書授与式ではないかと思う。毎年、証書授与時に学生一人ひとりに一分間程度で、四年間の感想、現在の気持ちなどをスピーチしていただいている。感激の涙で話せなくなる人、こそこそばかりに一芸を披露する人などいるが、同級生や友人へ福祉を通して、人種や思想、国境を越えた活躍をしていただけのことを強く願う次第です。

ハワイで考えた戦争と平和

医療経営管理学科長 水谷中正

娘が三月にハワイで結婚式を挙げることになり、一家でホノルルに向った。挙式までの合間、街中に出たり、ワイキキの浜辺を散策して時間をつぶしたが、浜辺に突堤があつて、そこから潜水艦でもくり、海中を旋回できる観光コースがあることを知った。物見遊山の気持ちで乗り込んでみた。アメリカ人の若者や家族連れそして日本人のカップルなどで賑わい、ブルー、イエローなどの色彩豊かな熱帯魚や人間の丈よりも大きいサメの遊泳に嬌声を発し、深海の旅を堪能した。

間もなく、海底に巨大な廃船が横たわり、その周りを魚が泳ぐ光景に出くわした。船にはコケが茫茫と生え、大砲や銃口とおほしき鉄製の筒が船体から飛び出し、闇の中に眠っていた。一九四一年十二月八日、日本軍が真珠湾攻撃した際に沈没した米軍の潜水艦だった。一隻だけでなく何隻も散らばっていた。戦争の残骸が目の前にあつた。地上の平和と海底の残骸。観光化しながらも、戦争を風化させないアメリカ人のすさまじい執念、憎悪の念に圧倒された。日本人のカップルに目をやりながら「何を考えているのだろうか」と思った。帰国後「テロ絶滅」を大義にイラク戦争に突入したアメリカ人の原動力は真珠湾攻撃にある。そ

ういう思いが強まった。

言葉を磨き



第三回
国際医療福祉大学総長
大谷藤郎

私たちは「言葉」の存在によって、時代や場所を超えて、さまざまな個人に接することができます。限られた一生の間に到底会うことのできない賢人や超人たちの思想に直接触れることができるのです。

明治・大正・昭和の初めにかけて活躍したキリスト者であり思想家であった山室重平は「磨くより、磨り減る方がよい」という言葉を残しました。その頃の日本では、西歐的な思想やキリスト教の活動などに対して、言論攻撃だけではなく、テロの脅威がありました。そのため口をつぐみ行動をさしひかえる知識人も多かった中で、彼は何もしないで自分の人格を磨きつづかせるのではなく、危険の中でも正しいと信じる行動を取り続けようとして、実際にその身を磨り減らしてその生涯を終えました。死の年に出ない声をふりしぼって行った講演「時難にして偉人を憶う」を読むとき、真の勇氣とは何かを思います。

昨年十一月にNHKが、ドイツ人画家オットー・ディックス(一九八一年一九六九)の生涯と作品について放映しました。第一次大戦が始まると、彼は愛国心に燃えて志願兵として参加したが、そこでの戦場の悲惨な実体験の恐怖と怒りをそのまま絵にしました。その絵は後にナチスから「退廃芸術」の烙印を

押され、逮捕もされ、第二次大戦になると懲罰的に召集されました。フランス軍の捕虜となつて生き延びた彼が、後世に向かって何を語りつとしていたか、残された彼の絵を見れば明らかです。

言葉だけでなく、絵画や音楽も、時代と空間を超えて、その人の思想延びてはその人格を私たちに伝えてくれます。言葉を磨くことは思想を磨くことであり、人格を研ぎ澄ますことでもあります。絵画や音楽も同じように思います。



プロフィール
京都大学医学部卒、医学博士。厚生省(現厚生労働省)医務局長、厚生省公衆衛生審議会会長を歴任。ハンセン病・精神障害の人権運動の指導者として日本だけでなく世界にも知られている。平成五年社会医学・公衆衛生分野におけるノーベル賞といわれるWHOのレオン・ヘルナール賞を受賞。本学初代学長。平成十三年より総長に就任。

新春のご挨拶

国際医療福祉大学附属熱海病院院長 神D仁



当院が平成十四年七月に国立熱海病院を継承し開院してから一年半が過ぎました。その間、職員一丸となつて病院の立上げに尽力してまいりました。

地元の熱海市をはじめ近隣各市町村の要望に心えるべく国立病院時代に休棟中であつた病棟を復活し、患者様の受入れ体制を充実させ、さらに小児科については静岡県東部地域では数少ない二十四時間の診療体制を整えました。患者様からは当院の職員の対応は大変親切で、医師も丁寧と説明してくれるとのよい評判をいただいております。患者数は外来の一日平均が五〇〇名、入院の一日平均が一五〇名となり、国立熱海病院引継ぎ時からおよそ三倍となりました。また地域の皆様のお役に立てるよう、当院の教授陣が医療についてさまざまな話題を講演する公開講座をこれまで二回開催して好評を得ております。

さらに当院は大学の附属病院であるため、本校から実習生を受入れ臨床教育にも力を注いでおります。当院がまた国立病院時代

の古い建物を使用しているため十分な環境とはいえませんが、皆様のご助言を得ながら、今後とも本学の附属病院としての役割を果たしてまいります。

院内に眼を転じますと学術懇話会や安全対策講習会、褥瘡講習会などの職員の資質向上に寄与する行事が活発に行われ、オープンして短期間にしては順調な滑り出しであると思っております。

新病棟の新築工事については順調に進んでおります。一年半後には新しい病院建物により充実した医療サービスの提供ができるようになります。今年には新病院での業務も念頭におき、準備を進めていかなければならないと考えております。

これからも職員一同、患者様に安心していただける病院づくりに邁進してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

第二回諮問委員会の開催

十二月五日、国際医療福祉大学附属熱海病院「第二回諮問委員会」が開催されました。この熱海病院諮問委員会は行政関係者や有識者、病院利用代表者などの諮問委員にお集まりいただき、病院に対するご意見等を伺う会です。

委員長は脚本家の橋田壽賀子先生が務められており、他に岩見隆夫委員(毎日新聞社特別顧問)など十二名の委員で構成されています。

当日は本校から谷学長、長谷川専務、小畑常務が出席し、委員の皆様からは救急医療のさらなる充実を求める声や予約診療により待ち時間を少なくさせる提案など、今

教員紹介

Profile

現在の所属・職位 要書・論文 本校における担当科目 今後の研究課題



澁澤公行
(シブサワ・ヒロキ)
臨床医学研究センター教授 / 1995年9月15日 / 東京医科大学 / 消化器一般外科 / 自他による頸部食道癌の手術、診療手技マニュアル・直腸鏡、他 / 外科学、外科学概論 / 食道癌の集学的治療について、癌の生物学的悪性度の評価法について、固形癌の化学療法



山田哲男
(ヤマダ・テツオ)
国際医療福祉大学教授、国際医療福祉病院産婦人科部長 / 1956年8月8日 / 秋田大学医学部大学院博士課程 / 周産期医学、婦人科学、生殖免疫学 / 自他医科大学産科婦人科学講師 / Yamada T. et al: Meconium stained amniotic fluid exhibits chemotactic activity for polymorphonuclear leukocytes in vitro. J. Reprod. Immunol. 46:21-30, 2000. / 産婦人科学全般



三柴恵美子
(ミシバ・エミコ)
視能療法学科講師 / 1953年10月2日 / 国立小児病院付属視能訓練士学院 / 視能矯正学 / 上部覚総合病院視能訓練士 / 潜伏眼振の研究、調節・輻輳障害を有する眼精疲労患者に対する映像増強訓練 / 視能矯正学総論、各論、口頭・口頭・口頭 / 視能訓練士と他職種との連携について



小田節子
(オダ・セツ子)
語学教育センター講師 / 1962年10月1日 / コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ英語教育学修士 / 英語教育学、国際英語 / 平成国際大学 / 日本人教師及び高校生への語学に関する意識調査 / 英語購読、LL / 国際英語に基づく発音教授法



倉本アユミ
(クラモト・アユミ)
保健学部理学療法学科助手 / 1996年9月10日 / オレゴン大学大学院国際学修士課程修了 / 小児理学療法 / 財団法人日本障害者リハビリテーション協会 / 日米難民児童教育の比較検討 / タイ、パナニコムインドシナ難民キャンプにて臨床実習指導等 / 幼児の歩行の理学療法評価



福留潤
(フクトメ・ジュン)
放射線・情報科学科助手 / 1997年11月15日 / 東京大学医学部医学科 / 放射線治療学 / 癌研究会附属病院放射線治療部 / 放射線治療の最新エビデンス(月刊新医療2003年12月号) / 放射線治療学(主に病院での実習指導) / 再発症例に対し放射線治療が果たす役割の検討

後の病院運営に役立てるべき貴重なご意見を頂きました。

第三回院内安全対策講習会の開催

去る十一月十八日、当院の安全対策委員会の主催で、第三回院内安全対策講習会が開催されました。今回は講師に医師と弁護士のダブルライセンスをお持ちの古川俊治先生をお招きしました。

古川先生は現役で医師と弁護士を兼任されている日本でも数少ない先生で、当院職員二〇名が参加して、医療訴訟の背景など先生の有益なお話を聞くことができました。

現在、慶應義塾大学医学部外科スタッフ、同大法学部講師と弁護士(東京弁護士会 TMI総合法律事務所)を兼任

第一回包括的指示による除細動プロトコル講習会の開催

十二月十二日、熱海市消防隊と共同で「第一回包括的指示による除細動プロトコル講習会」が開催されました。

この講習会は厚生労働省が進める除細動プロトコル体制の整備にかかわるものです。具体的には救急現場から医療機関に患者を搬送する間において、救急救命士等が医行為を実施する場合、その医行為を医師が指示または指導・助言してそれらの医行為の質を保証しなければなりません。当院の医師が実際に救急救命士を指示できるように開催される講習会です。当日は当院医師十五名が出席し、訓練用人形を用いて実際に除細動の訓練を行う講習などが行わ

れました。

当院は今後も地元元救急隊と協力して救急医療体制の整備に努めてまいります。

第三回大学附属熱海病院公開講座のご案内

当院の教授陣が医療についてさまざまな話題を講演する第三回公開講座を左記の予定で開催いたします。

【講座内容】

- 一 築山久一郎 国際医療福祉大学教授(循環器科)「高血圧との上手なつきあい方」
- 二 唐澤英偉 国際医療福祉大学教授(消化器科)「脂肪肝とは? 脂肪肝と慢性肝炎」
- 三 五来逸雄 国際医療福祉大学教授(産婦人科)「骨粗鬆症とは? その診断基準と治療方法」
- 四 腰野富久 国際医療福祉大学教授(整形外科)「骨のもろさと折れやすさ 骨粗鬆症と骨折」

日時:平成十六年二月八日(日)

十三時〇〇分~十六時三〇分

場所:熱海観光会館(熱海市役所隣)

参加費無料

受付窓口・外来窓口にてお申込み下さい(お電話でもお申込みいただけます)

当日は十二時より熱海駅(第一ビル前)から無料送迎バスを運行

国際医療福祉大学附属熱海病院総務課

電話 〇五五七 八一 九七一

(附属熱海病院 本山聡洋)



医療福祉チャンネル774NEWS



～ご自宅のテレビで医療、福祉、健康、介護の情報番組、資格受験講座がいつでも見られる！～

春の新講座がスタート！

今注目の資格

「福祉住環境コーディネーター2級受験講座」



「福祉住環境コーディネーター」とは、障害者や高齢者にやさしい住環境を提案するアドバイザーです。

パワフルな講師陣による、初心者にもわかりやすい丁寧な講義で、楽しく学んで、注目の資格を取得しませんか？

詳しくは、774チャンネルまでお問い合わせ下さい。

「IUHW アワー」で 大学情報をゲット！



学科の紹介！



サークルの紹介！

IUHWの「今」をお届けする国際医療福祉大学アワー。

学内で行われる催しや、学科やサークルを紹介。これを見ればIUHWの「今」が分かります。関連施設の紹介や求人情報など、役立つ情報も満載です！



学長の講演も！

医療福祉チャンネルを見るには

「医療福祉チャンネル774」は衛星放送スカイパーフェクTV!の774チャンネルでご視聴いただけます。

ご視聴には、スカイパーフェクTV!専用アンテナ&チューナーをお部屋のテレビにつなぐだけ！

視聴料・・・月額2,000円(税別) / 法人契約：5,000円(税別)

(このほかに、スカイパーフェクTV!加入料・・・2,800円(税別・初回のみ)・スカイパーフェクTV!月額基本料・・・390円(税別)がかかります。)

IUHW学生、マロニエ会会員、教育後援会会員の皆様は、特別視聴の制度があります。下記までお問い合わせ下さい。

視聴に関するお問い合わせは

フリーダイヤル 0120-870-774(お客様係) Eメール info@iryofukushi.com ホームページ www.iryofukushi.com

IUHW 国際医療福祉大学出版会新刊書のご案内

ケースワーク援助の方法と技法を
事例を取り入れながら分かりやすく解説

「ケースワーク援助の理論と実際」

著者：大島寛 国際医療福祉大学教授
A5判、286頁、ソフトカバー



定価：本体2,800円＋税

これから社会福祉学を学ぶとす
るすべての初学者のための入門書

「入門・社会福祉学」

編者：国際医療福祉大学医療福祉学
科/監修：鈴木五郎 医療福祉学部長・
学科長・教授 / B5判 392頁



定価：本体2,800円＋税

医療・経営管理職育成のための
バイブル

「三訂 医療・福祉経営管理入門」

編者：国際医療福祉大学医療経営管理
学科 / B5判、540頁、ソフトカバー



定価：本体3,800円＋税

NPO運営のための画期的な手引き書

「福祉NPOの挑戦 コミュニティケアの経営管理」

監修：水巻中正(国際医療福祉大学
教授) / 著者：橋口徹・福原康司(国
際医療福祉大学)・水谷正夫(NP
O人材開発機構) / A5判、378
頁、ソフトカバー



定価：本体3,000円＋税

ご注文は、国際医療福祉大学出版会まで 〒107-0062 東京都港区南青山1-24-1 アミティ乃木坂3階 電話03-5414-6098 FAX03-5414-6096
E-mail: press@iuhw.ac.jp http://press.iuhw.ac.jp

発行：国際医療福祉大学

編集部

〔東京〕
〒107-0062
東京都港区南青山1-24-1
アミティ乃木坂3階
電話 〇三 五 四 一 四 六 〇 九 八

〔大田原〕
〒324-8501
栃木県大田原市北金丸二六〇〇
国際医療福祉大学内
電話 〇二八七 二 四 三 〇 〇 〇

表紙・特集写真：岩橋修
デザイン：アイ・デプト

IUHW 短信

IUHW Note

2003年12月、大田原市職員互助会から本学留学生に自転車、ストーブ等の寄贈があり、留学生が大田原市役所に出向き受領した。

2003年12月18日、国際医療福祉大学で公開講座「国際・命・医療～国境なき医師団日本人スタッフによる講演会～」(主催：国際医療福祉大学OPST部、後援：国際医療福祉大学国際交流委員会)が開かれた。

1月16日、本学では、足利銀行の一時国有化に伴い、学費負担者に家計の急変が発生した入学者に対し、奨学金を貸与することを決定した。対象は、栃木県内の高等学校出身者で平成16年度一般入学試験による入学者のうち、上記の理由で、学費納入が困難と認められる学生。貸与期間は2004年度から4年間で、40人程度を募集する。貸与金額は保健学部が合計300万円、医療福祉学部が250万円。無利子で卒業後10年以内に返済。2003年度以前に入学した学生は、既存の奨学金制度で対応する。